

平成31年度事業報告書

平成31年4月1日から令和2年3月31日まで

特定非営利活動法人 Oneself

I. 事業総括

今年度は他団体や行政とのつながりができた。特に国際交流シェアハウスやどかりのある神戸市兵庫区では地元で活動するガールスカウトや地縁団体とのつながりができ、やどかりに住む留学生との交流を増やすことができた。兵庫駅前にある公園で子ども向けに開催したイベントと一緒に参加したり、兵庫図書館で開催されたお化け屋敷にお化け役として子どもたちと一緒に参加することができた。子どもとの交流は日本語学校では決して体験のできないコミュニケーションが多く、参加した留学生は「新しい日本語をたくさん教えてもらった。」「日本の小学校ではやっている遊びを教えてもらった。」ととても楽しそうだった。一方で地域の子どもたちからも「外国人のお姉さんと話すのは初めてで緊張したけどとてもやさしかった。また一緒に遊びたい。」「自分の学校に留学生と同じ国の人がいる。今度はその子とも一緒に遊びたい。」と新たな気づきや交流のきっかけを作ることができた。

そして今年度は兵庫区からの委託事業として初めて「～日越交流イベント～第1回フットサル大会」を開催した。近年兵庫区に増加するベトナム人留学生と地域住民との交流を目的としたもので当日は170名ほどの参加者がいた。初回開催でこの人数が参加するのは想定外だったが、ベトナム人留学生にとって日本人とフットサルを通して交流できたことは貴重な経験になったと思う。一方で1回の完結型となってしまう、せっかくできた交流の輪がその後つながることがなく「サッカーを一緒にして楽しかった。」という形で終わってしまったのでフットサルをきっかけにどのようにその交流をつなげていくか、輪を広げていくかということが課題である。

国際交流シェアハウスやどかりは5年を迎え、これまでの留学生や旅行者の受け入れだけにとどまらず新たに技能実習生向けの日本語研修を行った。技能実習生が来日し、企業に配属されるまでの1か月日本語を学ばなければならないが、実際には無資格者が日本語指導を行い適切な教育を受けていなかったり、法定で決められた日本語学習時間を下回ってカリキュラムが組まれている研修センターもあり技能実習生を取り巻く課題は多い。そういったことから、当団体の日本語教師が中心となり授業カリキュラムや指導内容や指導レベルを合わせるために日本語教師陣で指導方法を共有したり、勉強会を開催し技能実習生への日本語指導のレベルアップを目指した。

一方で技能実習生を受け入れている組合や企業とのコミュニケーションも積極的に実施し、企業派遣後の日本語指導や体調管理などもサポートを行っている。これらのサポートは当団体だけではなく「しんかいち国際保健室」で事業連携している神戸常盤大学看護学科の先生方にもご協力を頂き、SNS等で24時間健康相談ができるグループを開設し体調不良やこころの変化にいち早く対応できるようネットワークを構築した。実際に技能実習生から企業派遣後に「体調不良が続いている」「緊張からか夜あまり眠れなくなった」などの声がSNS上に集まり、看護学科の先生が対応してくださり、必要であれば組合や企業にも報告し、就業中に様子を見てもらうなどの対応をしてもらっている。専門的な知識をもつ外部団体が関わることで技能実習生や留学生が日本で安心安全に生活できるよう今後もサポートを続けていきたいと考えている。

Ⅱ. 組織運営

Ⅱ-1 会員数

- ・正会員…20名（個人）
- ・賛助会員…1名（個人）*団体賛助会員はなし

Ⅱ-2 理事会及び定例会の開催

- ・総会 5月に開催
- ・理事会 団体の運営方法及び事業に関する会議 全12回開催（1回/月）
- ・定例会 理事及び正会員で事業に関する進捗報告及び意見交換を目的に開催 1ヶ月に2~3回開催

Ⅲ. 特定非営利活動に関わる事業報告

◆Oneself 明舞日本語教室

実施日：毎週水曜日…2019年4月11日(水)10:00~11:30

場所：みなく一る明舞（明舞キリン堂薬局2階）

学習者：8名

担当者：日本語教師：1名・ボランティア3名



【実施内容】

現在、明舞日本語教室は学習者8名、ボランティア3名、日本語教師1名の計12名で構成されている。学習者は日本語の日常会話はほぼ理解できるが発話に関しては個々によってばらつきがあるため、各人の発話が多くなるよう話題選びには気をつけた。

主要テキストは「みんなの日本語初級1」だが、聴解・読解の際にも健康法・病気・料理・旅行・消費税値上げなど生活に役立つ情報を使える文型で導入してみた。伝える力や語彙力を高めるゲームや病院での医師と患者の会話をロールプレイで取り入れてみたが定着がみられなかった。学習者が飽きないようにと取り扱う内容が多かったことが原因とみられ、次年度はボリュームを減らしてじっくり取り組む方法を試みたい。また、母語を使わずにできるだけ日本語で会話できるシステム作りを考えたい。

2名のベテランボランティアは、教室活動に対する的確な意見やアドバイス、漢字の指導、学習者への丁寧な日本語支援など大変活躍されている。新しい方もよく勉強されて支援にあたっておられる。

◆技能実習生・特定技能外国人向け日本語教室

実施日時：受け入れ団体により異なる 合計 99 回実施

実施場所：国際交流シェアハウスやどかり

【実施内容】

N5 レベルチェックテスト

N5～N4 指導（漢字・語彙・文法・読解・聴解・会話・作文）

グループワーク（母国文化の紹介）

演劇（シンデレラ・白雪姫・浦島太郎・桃太郎）



【よかった点】

・介護系や工業系など多種多様な業種に対応できる教師と連携することができた。特に製造業 OB などと連携をすることで職場で使う日本語等が適切に指導できた。介護系についてもホームヘルパーの免許を持った日本語教師と連携することができ、福祉医療関係の専門用語について適切な指導ができた。

【改善点】

・現在新規日本語学校の開講や技能実習生、特定技能等で来日する外国人が増加しており日本語教師が慢性的に不足している。そのため毎週固定で担当してもらえる教師が少なく、平日クラスは月に2～3回でさまざまな教師に担当してもらうことになった。

・技能実習生への日本語指導については足場組立・建設・金属などの工業系企業へ派遣される場合専門用語の指導が難しく、経験のある男性日本語教師を探すことに苦労した。

・技能実習生に対する日本語指導について企業側の意識が低く「あまり余計な日本語を教えると口ごたえするので、日常会話ができるレベルにしてほしい。」という声もあった。

・技能実習生が安価な労働力として扱われないようにするため、単なる日本語指導のみならず企業や監理団体と連携し、技能実習生を受け入れるための適切な日本語指導・企業での労働環境の改善が必要だと感じた。

【異文化交流事業】

◆「エジプトってどんな国!？」

実施日時：2019年5月18日（土）12：00～14：00

実施場所：国際交流シェアハウスやどかり多目的ルーム

参加者：30名

【実施内容】

①エジプト人留学生の自己紹介

②参加者が知っているエジプトについて情報交換

③エジプト料理試食

④留学生との質疑応答

⑤模造紙にて質疑応答のまとめ

⑥写真撮影



【よかった点】

以前「カンボジアってどんな国!？」というテーマで留学生に発表してもらったところ好評だったので、同企画の第2弾となった。今回はムスリムのことについても学んでもらおうということになり、エジプト人留学生に発表を依頼した。

「日本語で発表するのは緊張するし、絶対に上手にできない!」と言っていたが、精一杯練習して頑張っていた。何度も日本語をチェックして日本人が理解できるかどうか確認する等、積極的に同イベントに向き合っていた。日本語で2時間ほど交流できたことは留学生にとっても大きな自信になったようで、このイベント以降シェアハウスの中でもコミュニケーションが増えて他の国の留学生とも積極的に交流を持っていた。

【改善点】

エジプト料理を提供してもらったが、調理中にムスリム以外の人間が食材や調理器具に触るとムスリムである彼がその食事を口にすることができならしく、30人ほどの仕込みを1人でしてもらうことになってしまった。

また開催時期はちょうど断食の期間でイベントの同じ時間に食事をするのができなかった。

今回はそういった発表側の状況も十分考慮してスケジュール調整が必要だと痛感した。

◆国際交流シェアハウスやどかり4周年イベント「やどかり夏祭り」

実施日時：2019年7月7日（日）11:00~15:00

実施場所：国際交流シェアハウスやどかり多目的ルーム

参加者：30名

【実施内容】

- ①世界の料理食べ比べブース
(インド・インドネシア・ウズベキスタン)
- ②縁日(スーパーボールすくい・ビンゴ)
- ③ワークショップ(似顔絵)
- ④飲食販売(ベーグル)



【よかった点】

毎年国際交流シェアハウスやどかりのオープン時期に開催し地域住民の方も参加できるイベントとして行っている。

昨年まではOnedayランチとして1か国のランチを提供していたが、今年は3か国の方が参加して下さることになり今までとは違って食べ比べブースができた。

特にウズベキスタンの軽食はとても好評であったという間に完売した。100円~という手軽な価格で「とにかく全部食べてみたい」とたくさん買って帰られる地域の方がいた。

「自分たちの国の料理にこんなに興味を持ってもらえるのはうれしい。」と参加された外国人の方々もうれしうだった。



【改善点】

外国人の方の飲食販売が増えたため、やどかり夏祭り1回目からブース提供してくれていたベーグル販売が大量に売れ残ってしまい「こんなにアウェイな夏祭りは初めてだった」という声が出てしまった。飲食ブースの出店や内容にも再度考慮が必要だと感じた。

◆「ベトナムってどんな国!？」

実施日時：2019年9月21日(土) 12:00~14:00

実施場所：国際交流シェアハウスやどかり多目的ルーム

参加者：35名

【実施内容】

- ①留学生及び技能実習生の自己紹介
- ②参加者が知っているベトナムについて情報交換
- ③ベトナム料理試食
- ④留学生との質疑応答
- ⑤模造紙にて質疑応答のまとめ
- ⑥写真撮影

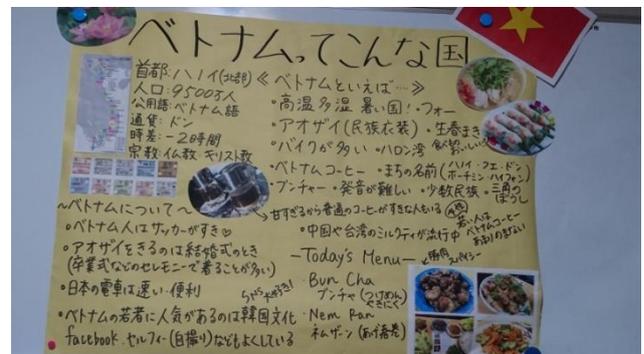


【よかった点】

司会進行を他国の留学生と日本人大学生にしてもらい、イベントを全体的に学生主体で進めることができた。進行のフォローをお互いにしながら、会場がどうすれば盛り上がるのか、参加者の方々と交流しながら進めることができたと思う。司会を務めた留学生からは「次は自分が母国文化を紹介するイベントをしたい」という声も出たので、参加した留学生が積極的に地域の方々と交流できる機会を作れたことはよかったと思う。

【改善点】

日本語でのやりとりがまだ上手にできないメンバーが母国紹介をしているのに黙っていることが多かったので、ベトナムの歌を披露してもらおう等何かもう少し工夫が必要だったと思う。



◆第1回日越交流イベント「フットサル交流大会」

実施日時：2019年10月20日(日) 12:00~17:00

実施場所：ノエビアスタジアム神戸フットサルコート

参加者：約170名

【実施内容】

- ①ノエビアスタジアム神戸見学ツアー実施
- ②フットサル交流大会開始
デモンストレーション・ルール説明
担当：アルコイリス神戸
- ③1試合10分でAグループ・Bグループに分かれて対戦(コート二面使用)
主審：アルコイリス神戸 副審：各グループより2名ずつ参加



④表彰式（各賞については参考資料参照）

⑤参加者による交流会（ベトナム料理…バインミー・生春巻き・タピオカミルクティー）

【アンケート結果】

事業終了後に各チームにアンケート調査を実施した。結果は以下の通り。

14チーム中8チーム（ベトナムチーム5・日本チーム3）が回答

1. 日本・ベトナム交流スポーツイベントについて

とてもよかった4 よかった4

理由

留学生との試合は新鮮で楽しかった。

参加人数に驚いたが盛り上がっている感じが終始あって面白かった

ベトナムのフィジカルの強さにびっくりした。サッカーがとても上手だった

景品や食事まであってよかった

ヴィッセル神戸の試合チケットがもらえるとあって学生のモチベーションが高かった

普段交流できない人達との交流は貴重だった

審判をプロがやってくれたので安心してゲームを楽しめた

2. 次回のフットサル交流大会の開催について

①次回大会があれば参加したいかどうか

ぜひ参加したい5 参加したい 3

②開催時期はいつ頃がいいか

夏休み期間中4…日本語能力試験や留学試験など、普段の時期だと学生に参加を呼びかけづらい

冬休み期間中1…選手権や総体の時期と重ならないほうがいい

授業期間中（10月頃）3…学生を集めやすい

3. フットサル交流大会について

とてもよかった5 よかった1

理由

限られた時間内である試合の組み方はベストだったと思う

副審を担当することで空き時間があまりなく、中だるみすることがなかった

プロが審判をやってくれるのがいい

4. 表彰式・交流会について

とてもよかった5 ふつう1

理由

区長が参加されていたので兵庫区のイベント！という感じがしてよかった

ベトナム料理がおいしかった（サンドイッチみたいなやつは初めて食べた）

知らない人と話すことができた

留学生が日本人と話すきっかけになった

交流会はよかったが、ベトナム人が自分たちのテーブルにあまりいなかった

5. ノエビアスタジアム神戸見学ツアーについて

ふつう1

普段見られないところを見られてよかった

時間に余裕があれば参加したがっていた他のメンバーもいた

6. 外国人留学生や学生との交流について

ぜひ交流したい1 交流したい4

山登り・フルーツ狩り・植物園・遠足のようなもの

【よかった点】

普段なかなか接点のない日本人大学生等と留学生の交流としては貴重な経験になったと思う。

特に試合の待ち時間中に日本チームからは「ベトナム人がこんなにサッカーが強いと思わなかった。」と驚いた様子で「やばい、負けそうや」と次の試合に向けて作戦を練っているチームもあった。また留学生も学校での様子とは違った一面が多く、日本人に積極的に声をかける学生もいた。後日学校で話を聞いたところ「日本人とサッカーができてよかった」「またやりたい」「次はもう少し話せるように頑張りたい」という非常に前向きな声が多く、留学生が日本語を勉強する意欲向上にもつながるイベントだったのではないかと思う。

【スタッフ・多文化交流員の意見】

<スタッフ>

- ・ベトナム人にとってサッカーがこれほど人気であることを初めて知った
- ・参加者が多くにぎやかな事業になったのでよかった
- ・初めて企画したフットサル大会だったが、スムーズに進行できたと思う
- ・交流会の会場レイアウトをもう少し自由にできればよかった
- ・食事がきちんと提供できているのか確認するので精一杯で交流会には参加できなかった
- ・参加者同士の交流をサポートする余裕がなかった
- ・すべて自分たちでしなければならぬと代表から聞いていたので行政の方に手を貸してもらった時に気が引けた

- ・会場が大きいので電話やLINEではリアルタイムで情報を共有しにくかった

(電話やLINEに気づかないメンバーもいた)

<多文化交流員>

- ・参加チームが多くて楽しかった
- ・ベトナム語でのサポートはそこまで必要ではなかったと思う
- ・得点をチェックする時に学校名が覚えづらくて大変だった
- ・会場誘導はあまり仕事がなく座っていることが多かった



◆「Tet（旧正月）をお祝いしよう！」

実施日時：2020年1月18日（土）12：00～14：00

実施場所：国際交流シェアハウスやどかり多目的ルーム

参加者：30名

【実施内容】

- ①留学生及び神戸市多文化交流員の自己紹介
- ②神戸市多文化交流員による旧正月の過ごし方について発表
- ③ベトナム料理試食
- ④留学生との質疑応答
- ⑤ベトナムのお菓子「ムット」づくり
- ⑥写真撮影



【よかった点】

今回のイベントには地域の方のみならず地元企業の方々にも参加していただいた。近年兵庫区に増えているベトナム人留学生が中心となり母国のお正月の過ごし方について発表してくれた。

どのグループも参加された方が積極的に留学生に質問をされていて、イベントが始まるまでは「日本語でコミュニケーションがとれるか心配。」「自分のテーブルがあまり盛り上がらなかったらどうしよう。」と心配していたメンバーもいきいきと活動できていた。

【改善点】

地域の方のほうに参加者が多く、各テーブルともベトナム人留学生と話す時間より日本人同士で話す時間のほうが長くなってしまった。

今後はもっと参加してくれるメンバーを探し、さらにコミュニケーションが活発になるよう努力したい。



◆「日本のお正月を体験しよう！」

実施日時：2020年1月18日（土）15：00～17：00

実施場所：国際交流シェアハウスやどかり多目的ルーム

参加者：20名

【実施内容】

- ①神戸学院大学西垣ゼミ生の自己紹介
- ②日本文化体験（書道・こま回し・めんこ・けんだま）
- ③日本料理試食会
（お好み焼き・焼きそば・たこ焼き・回転焼き・抹茶アイス）

【よかった点】

大学のゼミ生が参加してくれたことで留学生にとっては貴重な同世代交流となった。

ベトナムのお正月のイベントと同日開催にしたことで、留学生にとっては母国と日本それぞれのお正月を知ることができとても有意義だったと思う。朝早くからイベントの準備をしてくれていたゼミ生は全員積極的でスムーズな進行だった。

◆しんかいち国際保健室

実施日時：毎週水曜日 16：30～18：30

実施場所：国際交流シェアハウスやどかり多目的ルーム

参加者：

【実施内容】

①通常版 毎週水曜日 16：30～18：30…41回

②拡大版 しんかいち国際保健室 1回

③感染症予防をテーマとしたワークショップ 3回

技能実習生・留学生向けに感染症予防に関するイベントを実施

9/18…手洗いの仕方や結核などの感染症に対する意識について 5名

9/20…性教育 5名

2/19…感染症予防に対するワークショップ 40名

(母国での衛生教育を把握)



【よかった点】

「しんかいち国際保健室」の定期開催はもちろん、健康な状態でも参加できる保健室（有酸素運動がもたらす身体への効果について・栄養学指導など）を開催し、健康に関するヒアリングやワークショップを行った。

また通訳者に参加してもらい母国での感染症に対する考え方を発表してもらったり、通院判断のレベルが国によって違うのか等の情報を共有することで神戸常盤大学の指導内容にFBすることができた。

留学生や技能実習生の健康状態を把握する事業が継続できたことで、急性の病気対応が可能だった。また結核を発症した留学生のフォローや濃厚接触者への対応方法等を共有し適切な対処方法を日本語学校と共有する等、連携し実施できた。

【改善点】

「保健室」と聞くと「体調が悪い人が行くところ」というイメージが強く、留学生の中でも気軽に相談するというイメージにはなかなか結び付かなかった。地域では少しずつまちの保健室が増え、居場所と保健室機能がセットになったところもある。そういった気軽に集まれる場所というつくりかたが必要だと感じた。

年度の途中からは神戸常盤大学の先生方のご提案もあり「足つぼマッサージ」や「虫歯チェック」「ヨガ」「ストレスをためない方法」「ダイエットにつながるランニング方法」など、健康な時にも楽しんで参加できるプログラムを企画していただいた。しかし、プログラムを増やせば増やすほど担当される先生方の負担も大きくなるため毎週定期的に行うのは大変だという声もあがった。



【定住外国人雇用自立支援事業】

◆国際交流シェアハウスやどかり

事業開始日：2015年7月1日

事業所所在地：神戸市兵庫区中道通 2-2-11

今年度は当シェアハウスに住んでいる留学生や技能実習生たちが自分たちで考え、自分たちで動き積極的に地域交流を行った一年だった。またその結果、当シェアハウスから2名の神戸市多文化交流員が誕生し、今後は兵庫区のみならず神戸市全域において母国の文化を紹介したり、さまざまな方との交流が盛んになっていくと思う。特に兵庫区においては区役所で開催された区職員との交流会に参加したり、自治会行事、地縁団体との交流など活躍する場を大いに提供していただいた。



特に地域と関わりの深かった事業は以下の2つ。

①兵庫区×神戸市多文化交流員（やどかりメンバー含）意見交換会

開催日時：令和元年10月1日（火）17:30~19:30

開催場所：兵庫区役所 8F 会議室

参加者（敬称略）22名

神戸市国際課…1名・兵庫区役所…11名・多文化交流員…7名・やどかり…3名

進行役：ダン・中野

【実施内容】

①兵庫区について紹介

兵庫区に住む外国人が増加している。

特にベトナム人の増加が顕著であることを説明。

また兵庫区のキャラクターや観光スポット等の紹介。

②神戸市国際課・兵庫区役所職員の自己紹介

③多文化交流員・やどかりメンバーの自己紹介

④交流の活動紹介

兵庫区がこれまでに外国人留学生等と行ってきた交流会を紹介。

また国際交流シェアハウスやどかりで実施したイベント等の紹介。

⑤意見交換会



<行政側>

- ・国際美化活動…日本人は外国人と接する機会がないので嬉しい反面不安もある。
兵庫区は特に高齢者が多いため。さまざまな交流を通して意思疎通をはかりたい。
- ・外国にルーツをもつ児童・生徒が増えている。中国 78 名、ベトナム 18 名・インドネシア 4 名せっかく多文化交流員という制度ができたのだから彼らの言語や精神的なサポートをお願いしたい。
小学校等で日本語レベルが高くなっていく児童と日本語がわからない親とのコミュニケーションが難しくなっている。サポートはあるが週に 1 回程度。もっとサポートが必要。
進学や就職に影響がある。
- ・国民健康保険や国民年金の制度理解や加入しているメリット、支払いをしない場合に起こる資産差し押さえ等を外国人の方にどうやって理解してもらったらいいのか、アドバイスがほしい。
- ・ふれあいハイキングなどに外国人の方も参加してほしい。
- ・兵庫運河祭の案内。水と音楽、光でつくるイルミネーション。毎日 3 回開催。無料。
イオンモール神戸南で開催。ぜひ見に来てほしい。

<多文化交流員側>

- ・近年、留学ビザで入国した学生のおよそ 20%が結婚で家族滞在ビザに変更するパターンが増えてきた。子育て等に関するサポート・制度をもっと教えてほしい。
→大学を卒業してから来日するベトナム人が増えているため、留学期間中でも結婚を意識する学生が増えている。
- ・119 や 110 などの緊急連絡先でベトナム語対応がない。民間企業であればベトナム語対応できるところも増えている。(au やなか卯など) 行政機関の多言語化を求める。
→神戸市としては対応したいが、多言語対応についての管轄は政府機関(現在消防庁は 4 言語・ベトナム語対応なし)なのでベトナム人の方々にも声をあげてほしい。
- ・地域のおもちつき大会で外国の料理とコラボレーションして新しいお餅の食べ方を提案したい。
→ナンプラーをつけてベトナム風に。ココナツカレーとともにインドネシア風。
- ・野球のルールや楽しみ方を紹介してほしい。
- ・プラスチックやペットボトルの清掃活動に協力してほしい。
環境を守る活動をしたい。国はいろいろ違って地球は 1 つしかない。みんなで協力することが大事。
- ・座禅を組める場所を紹介してほしい。
飲酒などで気分転換をするのではなく座禅や写経などで心のバランスをとれるようにしたい。
兵庫区内はお寺が多いのでどこか協力してもらえ場所がないか。
- ・子どもフェスタのように地域の子もたちと交流できる機会がほしい
ハロウィンパーティを企画したので広報に協力してほしい

【よかった点】

- ・留学生が日常生活で困っていることや、身の回りで起きていることを行政担当者に直接話せる機会だった
- ・留学生の考えていることが兵庫区で形にできそうなものがあった。

座禅をできる場所がほしい—兵庫区はお寺が多いなど

- ・日本の学校現場で起きている問題点と留学生のルーツが強みになる可能性がある。
インドネシア人 4 人の中学生—地域で活動したいインドネシア人留学生など

【改善点】

- ・フリートーク形式となってしまったため、発話のない留学生もいた。
- ・グループ分けやポストイットで少しでも多くの意見を出してほしいという意図が伝わりづらかった。

②防災授業

開催日時：令和元年11月20日（水）13：00～15：00

開催場所：神港橋高校

同行者：兵庫区役所3名・Oneself 1名・技能実習生受入企業2名

参加者：ベトナム人技能実習生1名・多文化交流員1名

・「言葉がわからない」体験ゲーム

地震が起こった。さあ、あなたはこの表示を見てどちらの方向に逃げる？

避難所で配られた水。さあ、あなたはどちらを飲む？

避難所に張り出されたお知らせ、何て書いてある？

避難所で自分に必要なものを手に入れよう。

避難所で自分たちに必要な数量分を手に入れよう。

以上5つのゲームを行った。

1の状況 案内表示の内容が読み取れず、不正解の方向に逃げた人は「ケガ」をした。ケガをした人は足にテープを巻く。

2の状況 避難所に2個設置されたペットボトルの表示の字が読めずに工業用水（手洗い用）を飲んで「腹痛」を起こす。工業用水を選んだ人はテープを腕に貼る。

3の状況 避難所に張り出されたお知らせの言葉（字）がわからず内容が理解できない。

4の状況 必要な物資を手に入れる。ケガした人は救急セット、腹痛の人は薬。書かれた表示がわからず違うものを手にする。

5の状況 表示された字がわからず必要な数が手に入らない。

【よかった点】

言葉、文字が読めなかったら、危険なことになる、命にかかわる、など災害時には自分も大切だが困っている人を助けることも大切であることを自ら体験し行動に移そう。という授業であったと思う。

【改善点】

授業を指導する人と生徒の一体感が感じられず、生徒は授業に対し「さめた感」があるように思った。

言葉が通じない、わからない場合はどうしたらいいか指導者があらゆる角度から提案し、生徒の意見を引き出せばよかったのではと感じた。アラビア語、ベンガル語、タイ語、ロシア語、ポルトガル語と生徒たちが初めて見るような字をあえてゲームに使う必要があったのか？世界にはいろんな文字があることぐらいは生徒たちは知っている。ゲームというより当てものでもしている感があった。

避難所では「やさしい日本語」に加え多言語表示がされるので少し現実感から離れているように思った。

